

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	耕作放棄地での野菜作りを通じた地域の方々との交流プロジェクト
対象地域	栃木県日光市三依地区
活動概要	<p>背景と地域課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島県との県境に位置する日光市三依地区は日本でも有数の豪雪地帯である。 <p>2007年度より 当地区での雪かきボランティア活動を始めたことがきっかけで、地域住民との交流が少しずつ広がってきた。住民の高齢化に伴い、耕作放棄地になりつつある畑の管理について、相談を頂くようになった。一方で、日頃より宇都宮市での市民活動支援、ボランティアコーディネイト業務に携わる中で、人間関係が希薄化する現在社会だからこそボランティア活動などへの参加意識を通して人とのつながりを求める若者が多いことを実感するようになった。農村部と都市部の双方が抱える問題への取り組みとして本事業を実施する。</p> <p>テーマ・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業を通じた、地域住民と若者の関係づくり：作物の育て方など、地域住民（畑の先生）から教えて頂く。畑での共同作業から、地域の声を集め、高齢集落の生活に関わる問題を把握、分析、研究する。 ・高齢集落での若者の農業体験：有機農業へのチャレンジから食の見直しと、農村での体験によるライフスタイルの見直し。 ・耕作放棄地の活用：実際に3年以上放置された畑を再生する方策を模索、研究、実践する。 ・農村に伝える生活の知恵（文化）の伝承：野菜の作り方や保存食（漬物・干し芋）の作り方など、自然と共に生活する知恵や技術を若者が学び、伝承する。それらを記録し、発信する。 ・グリーンツーリズムの実験：日本の原風景の残る農村集落の価値を若者の視点から再発見し、都市住民と農村住民との参加型交流の実験の実施。 ・コミュニティビジネス（地域の手仕事づくり）へのチャレンジ：地域住民の生活の知恵（食品の保存技術）を活かし、耕作放棄地を活用した野菜を、地域住民から教わり、共同で漬物づくりや干し芋づくりを行う。できたものを宇都宮で販売し、その売上を地域の住民へ還元する。 ・社会的事業家のチャレンジと育成：社会的な課題を解決しながら、お金を扱い、社会問題を解決するプロを養成する機会にする。 ・当面は交流人口の拡大を考えつつ、地域住民と繋がっている二地域居住を目指す。
今年度の主な取組	<p>(2) 活動内容の案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、日光市三依地区横川集落の耕作放棄地約500坪の畑を無料で借りている。その土地で地域住民との共同畑を実施する予定。5月25日に地域住民からトラクターを借りて、耕し、種撒きをする。6月以降毎週集落に入り、畑の管理をしつつ、住民との交流を行う。→今年度は、畑を通して地域住民との交流、顔の見える関係作りに注力。 ・地域住民との交流を通して、季節に応じた生活の知恵を学ぶ「三依塾」の開催（山菜取りや、茸取り、炭の作り方など行う）。 ・畑からできた野菜を漬物や干しいもにし、三依のおばあちゃんが作った“漬物”“干し芋”を商品化し、宇都宮市内で販売する。その売上は三依地域の住民へ還元する。同時に都市部の人に、漬物・干し芋を通して、高齢集落の魅力を感じてもらおうきっかけを作る。 ・冬期は、野菜作りを教えてくださいとお礼に集落の雪かきを行う。 ・年間を通し地域住民と関わることでの知恵・文化を記録し、蓄積し発信する。

活動結果	<p>・畑作業を通して、定期的に地域に入ることができ、地域内の会合や地元キーパーソン、行政、地元団体等との意見交換など交流を通して、地域課題や資源(歴史、地域のお祭り等)を知ることができた。そのことによって具体的な事業計画と事業設計が可能になると同時に、地域の将来像との意見交換ができる距離感を作ることができた。また都市部の若者15名がメンバーとして加わることを考えると、都市部と農村の交流の魅力、グリーンツーリズムの潜在的ニーズを反映していると見ている。同時に、地域課題を対応し、楽しめる魅力のあるプログラムを作ることができたことも要因として捉えている。地域の拠点づくり(野菜作り・炭作り等)は、本年度では調整がつかなかった。空き家はあるものの、地域では先祖が帰ってくる場所として捉えられ、よそ者に貸し出すことに難色を示していた。しかしながら、地域住民が空き家を活用できるように引き続き調整し、次年度拠点ができれば、滞在型の事業展開ができ、また地域住民との交流できるプログラムと時間が可能になる。地域課題(ニーズ)が見え、キーパーソンとの繋がりが深まった分、担う役割は大きくなっていった。それに伴う人材育成(地域住民とコミュニケーションが取れ、課題把握できる人物等)は、当初見えていなかったが、現在では急務だと考えている。</p>
当初予想していなかった効果	<p>地域住民との関係性が想定以上に早く広がった。地域のニーズとこちらの事業とが一致していたことと、本年度の事業の前からの関わりもあって、信頼関係ができていたのではないかと考えている。空き家の調整や共同事業の提案など、地域住民に思った以上に協力して頂いており、雪かきででた雪の活用を考えていたところ、地域との雪を使って交流できるのをやりたいとのアイデアが生まれた。それを踏まえて、来年度地域と一緒に実施することを約束して、「雪合戦のトライアル実施と会津若松での雪合戦体験」を実施した。</p>
実施状況(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>○萱刈りの様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>○雪かきの様子</p> </div> </div>
応募団体名	特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房
リンク	http://homepage2.nifty.com/shiminkoubou/
部局/担当者名	岩井 俊宗
連絡先	028-634-9901
推薦市町村名	栃木県日光市